

故きを温ねて 「新」しきを知る



平安末期～鎌倉初期の作といわれる阿弥陀如来座像(善成寺公園(左・市指定))と、中世の形を色濃く残す水室神社の「宮座」(上・市指定)。

受け継ぎ、学び、挑む。

古式の建築物である神社や寺、安置されている仏像。中世の新見庄時代から続く、名主が寄り集まって氏神をまつり、団結と権威を示した「宮座」。和紙の原料となるミツマタの栽培が盛んだった神郷下神代地区に古代から伝わる良質の和紙、奥備中神代和紙。明治のはじめまで盛んに行われていた、たたら製鉄。

そのほか、伝統的な祭りや民俗芸能、神楽など、その多くが国や県、市の重要無形民俗文化財に指定され、年中行事として現在も受け継がれています。



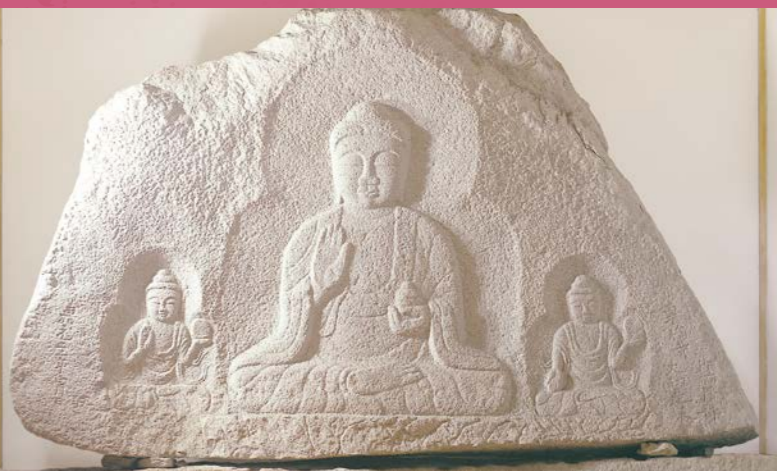
砂鉄と木炭を粘土製の炉に入れ、ふいごで風を送って鉄を精錬する「たたら」。市内各地にたたらの遺跡が存在する新見市では、年1回、本格的な中世たたら製鉄を忠実に再現しています。当日は、延べ500人が交代で、一昼夜かけてふいごで炉に送風します。

Tatara furnace iron-making, Japanese paper-making, folk performing arts, traditional rituals and festivals have been inherited through the ages.



▲紙すき

鎌倉時代に造られた石堂薬師三尊像は、まん中に薬師如来、両側に日光菩薩(写真右)と月光菩薩(写真左)が浮き彫りになり、「嘉元4(1306)年正月」と刻まれています。地元では「お薬師さん」と呼ばれ、県の重要文化財に指定されています。



丸川松隠・山田方谷

師弟ともに新見の発展に尽力

新見藩領西阿知村(現倉敷市)に生まれ、幼少から学問に精を出した丸川松隠は、大坂にあった中井竹山の塾「懐徳堂」などで儒学を学びました。1787(天明7)年、寛政の改革が始まり、老中・松平定信は幕府昌平黌の学官に登用する優秀な人材として松隠に白羽の矢を立てましたが、松隠は「私

は新見藩の人間であり、新見藩以外で養ってもらう気はない」と老中直々の要請を断り、1794(寛政6)年、新見藩校思誠館の督学教授となりました。その後、藩政参与となった松隠は、財政難が続く藩政の改革を行い、指南書「型典」を著し、以後これが藩政の手法となりました。

また、松隠に学んだ山田方谷は、幼少より神童と呼ばれ、政治家・教育者として活躍した新見ゆかりの偉人で、1870(明治3)年、母の出生地である大佐小阪部に移り住み、小阪部塾を開塾して教育に力を注ぎました。



方谷は5歳で松隠のもとに預けられ、生涯の師として松隠を仰ぎました(上)。陽明学者、藩政改革者、教育者として活躍した方谷の偉業を伝える山田方谷記念館(左)。「誠実、勤勉、清貧、謙讓」の人格が伝わる貴重な資料が展示されています。

新見市ゆかりの偉人

山室軍平

日本社会事業の先駆者

1872(明治5)年、現在の新見市哲多町本郷に生まれ、キリスト教の伝道師から日本人初の救世軍士官となりました。民衆の説教者として1万回の説教講演を行うとともに、社会福祉事業、公娼廃止運動、純潔運動に身を捧げ、石井十次、アリス・ペティン・アダムス、留岡幸助とともに「岡山四聖人」と呼ばれています。



軍平が生まれてから8歳まで過ごした哲多町本郷に建てられている顕彰碑。裏面には、自筆の言葉が刻まれています。



若山牧水

旅と酒に生きた国民的歌人

牧水が一泊した哲西町大竹にある「幾山河越えさり行かば…」の歌碑。後に寄せられた牧水の妻と長男の歌碑も並んでいます。



牧水は1885(明治18)年現在の宮崎県日向市に生まれました。旅と酒をこよなく愛し、43歳で亡くなるまでに約8700首の短歌を詠んでいます。牧水を代表する名歌「幾山河越えさり行かば寂しさの…」は、1907(明治40)年の夏、郷里宮崎への帰途で、苦坂峠(新見市西方)を越える際の情景を詠んだものといわれています。